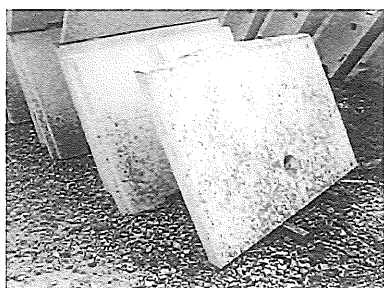
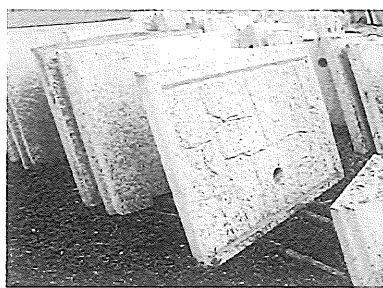


大型ブロック(高知県型)施工マニュアル



滑面



擬石面

日本工業規格表示許可工場

GB0708017 JIS A5371 プレキャスト無筋コンクリート製品 I 類

松井ブロック 有限会社

須崎市浦ノ内灰方字大佐コ794-6

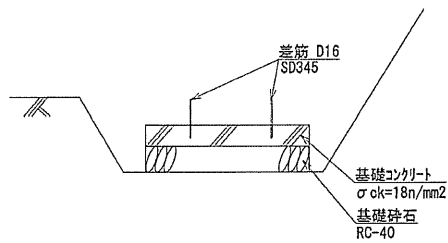
TEL 088-856-3852

FAX 088-856-2808

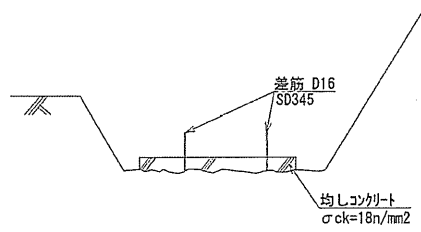
1. 基礎コンクリート

床掘完了後、基礎材を敷均し、転圧後、基礎コンクリートを打設します。
コンクリート設計基準強度は $\sigma_{ck} = 18 \text{ N/mm}^2$ とする。
その後所定の位置に差筋を施して下さい。
※構造計算書の最大地盤反力を確認し、地盤の反力を確保して下さい。
※支持地盤が土質の場合は、基礎材（碎石等）を施工し、基礎コンクリート施工する。
支持地盤が岩盤の場合は、均しコンクリートや敷モルタルにて施工する。

土質の場合

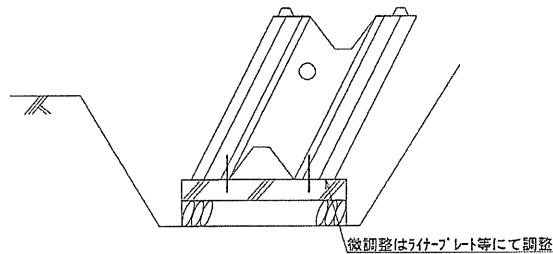


岩盤の場合



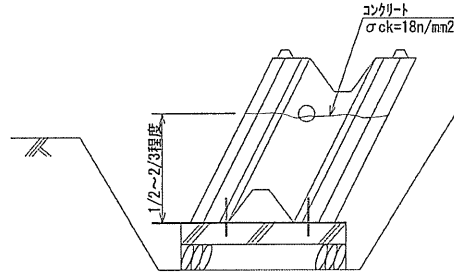
2. 1段目ブロックの据付

基礎コンクリート養生後、ブロックを重機にて吊り上げ基礎コンクリートの所定の位置にブロックを設置します。
微妙な高さ調整については、ライナープレートなどを使用する。
吊り金具については専用金具を仕様して下さい。
ワイヤー等については、十分な点検を行う様にして下さい。



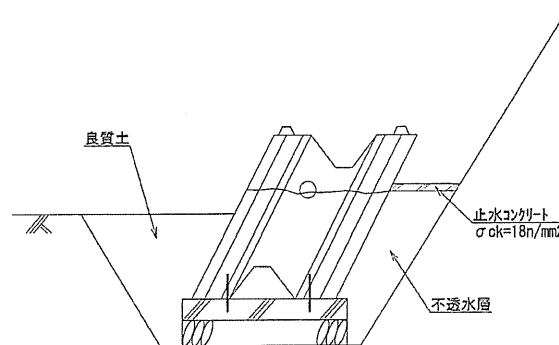
3. 1段目コンクリート打設

胴込めコンクリートを投入し、入念に締固めを行う。
この際、コンクリートの打継目が大型ブロックの高さの $1/2 \sim 2/3$ になるように施工し、
コンクリートの水平打継目と大型ブロックの水平目地が同じ位置とならないように施工しな
なければならない。



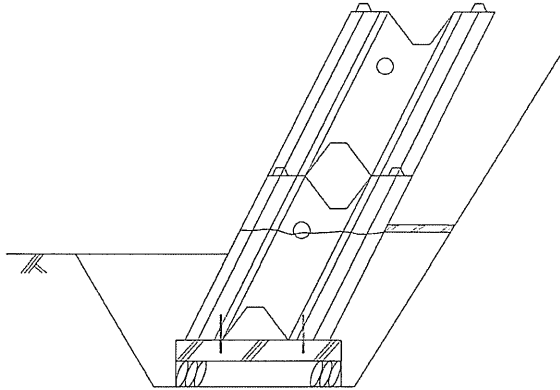
4. 不透水層の施工

基礎周辺部に背面土からの水の浸透による悪影響を及ぼさない様、擁壁背面に不透水層を設け
なければならない。
この場合、少なくとも擁壁全面の地盤線より上まで不透水層を設け、かつ止水コンクリートを
設けることが望ましい。



5. 2段目ブロックの据付

②と同様に2段目を据付する。

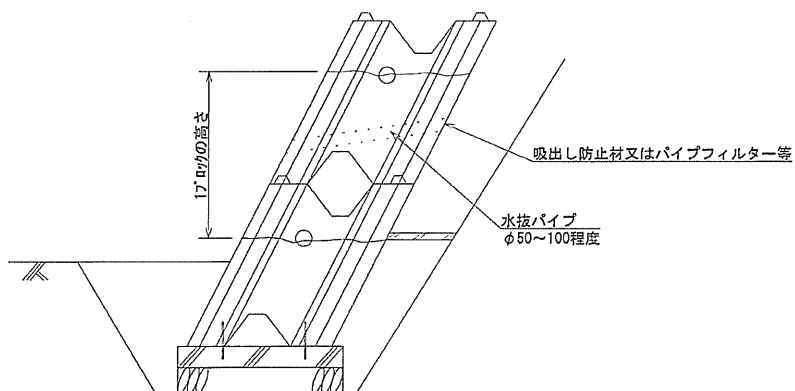


6. 2段目コンクリート打設

2段目設置後、水抜きパイプや背面に吸出し防止材やパイプフィルターを設置する。
(ブロック面積2~3m²に1ヶ所の割合で5~10cmの水抜き孔を設ける)

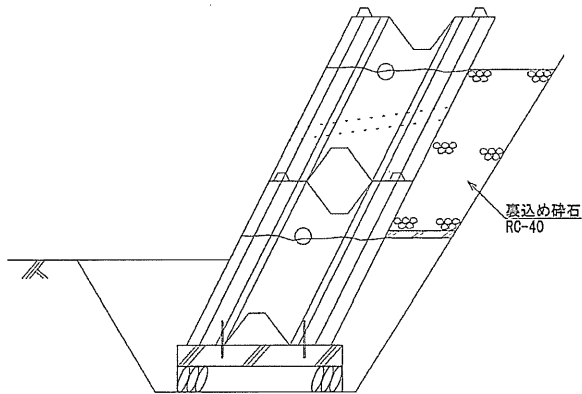
※なお、湧水等が特に多い場合はこれより密に配置しなければならない

③の工程と同様に2段目の大型ブロックの高さの1/2~2/3の打設高さになるように施工を行う。



7. 裏込め材の施工

不透水層（止水コンクリート）上に、裏込め材（砕石等）を施工する。裏込め材の投入は、埋戻し土（盛土の場合）の1回のまぎたしに先行して行う。
1回あたりの積層高さは30cmを標準とし、順次施工するものとする。



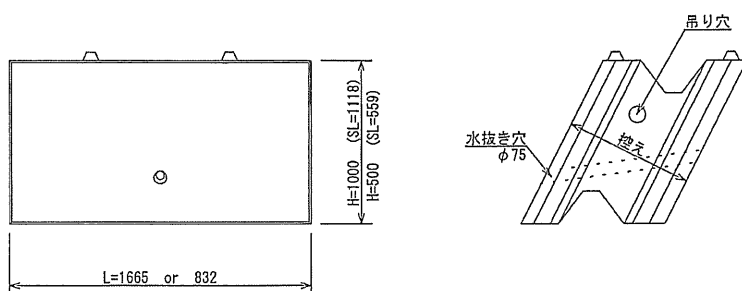
以上の作業を繰り返し天端処理をする。

目土工＝伸縮目地の間隔は、10mを標準とする。
但し、河川護岸については別途考慮する。

割付参考図が必要な場合は各営業担当までご相談下さい。

吊り具等の安全確認を怠らず、吊り荷の下には絶対に入らない事

大型ブロック規格表

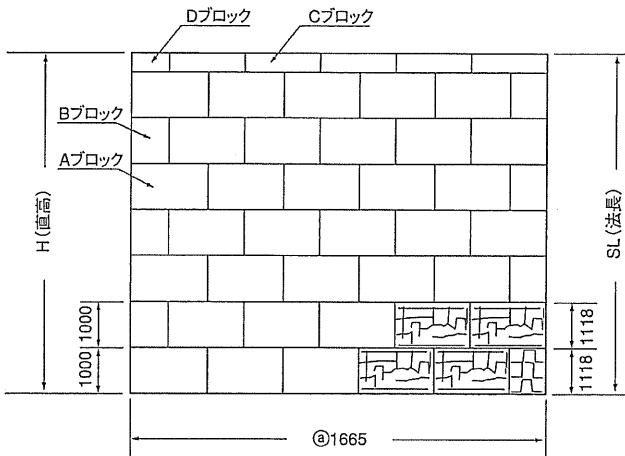


○製品タイプ・諸元

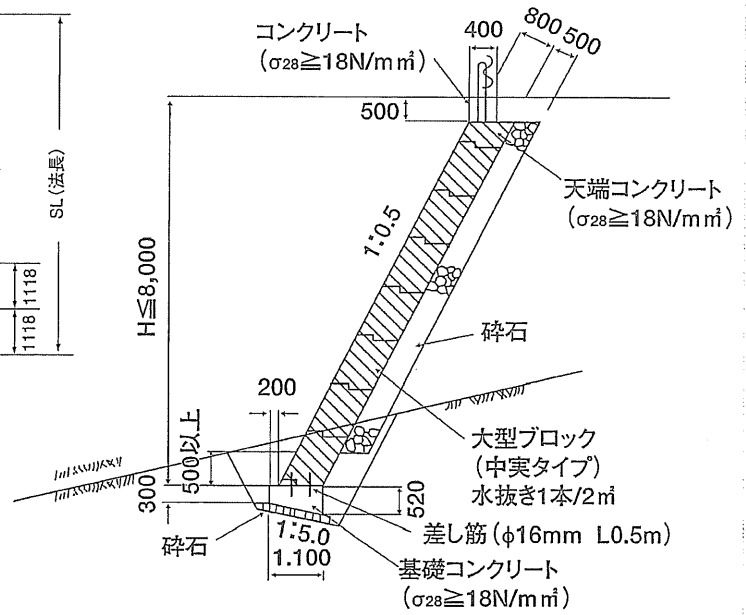
呼 称	参考重量 (kg)	寸 法 (mm)			体積 (m ³)	胴込コンクリート (m ³)		
		幅	高	控 長		1個当たり	1m ² 当たり	
800タイプ	基本：A	1,587	1,665	1,000	800	0.690	0.799	0.424
	端部：B	938	832	1,000	800	0.408	0.336	
	端部：C	807	1,665	500	800	0.351	0.393	
	端部：D	467	832	500	800	0.203	0.169	
1000タイプ	基本：A	1,753	1,665	1,000	1,000	0.762	1.099	0.583
	端部：B	1,056	832	1,000	1,000	0.459	0.471	
	端部：C	920	1,665	500	1,000	0.400	0.530	
	端部：D	527	832	500	1,000	0.229	0.236	
1250タイプ	基本：A	1,932	1,665	1,000	1,250	0.840	1.486	0.789
	端部：B	1,196	832	1,000	1,250	0.529	0.634	
	端部：C	899	1,665	500	1,250	0.391	0.772	
	端部：D	522	832	500	1,250	0.227	0.355	
1500タイプ	基本：A	2,088	1,665	1,000	1,500	0.908	1.885	1.003
	端部：B	1,306	832	1,000	1,500	0.568	0.828	
	端部：C	1,003	1,665	500	1,500	0.436	0.960	
	端部：D	580	832	500	1,500	0.252	0.446	
1750タイプ	基本：A	2,226	1,665	1,000	1,750	0.968	2.289	1.218
	端部：B	1,412	832	1,000	1,750	0.614	1.014	
	端部：C	1,132	1,665	500	1,750	0.492	1.136	
	端部：D	679	832	500	1,750	0.295	0.519	
2000タイプ	基本：A	2,479	1,665	1,000	2,000	1.078	2.644	1.410
	端部：B	1,608	832	1,000	2,000	0.699	1.162	
	端部：C	1,256	1,665	500	2,000	0.546	1.315	
	端部：D	771	832	500	2,000	0.335	0.595	

● 参考施工図

展開図



● 標準断面図

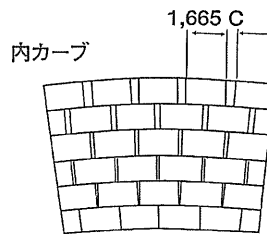
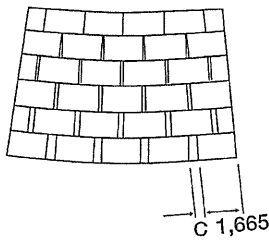


※基礎のタイプは土質等により、決定してください。
(図は高知県標準タイプ)

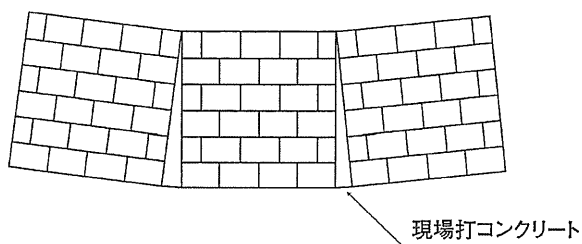
● 曲線部の施工

曲率半径が大きい場合 (施工ジョイントを10m間隔とする)

外カーブ



曲率半径が小さい場合



曲線部施工延寸表

単位:cm

半径 段数	曲線半径(m)			
	20	50	60	100
1	2.5	1.0	0.8	0.5
2	5.0	2.0	1.7	1.0
3	7.5	3.0	2.5	1.5
4	10.0	4.0	3.3	2.0
5	12.5	5.0	4.2	2.5
6		6.0	5.0	3.0
7		7.0	5.8	3.5
8		8.0	6.7	4.0
9		9.0	7.5	4.5
10		10.0	8.3	5.0

注i 延長10m間隔で施工ジョイント(エラストイト)を設定したとして。

注ii 段数は、外カーブ擁壁で天端から数える。
内カーブ擁壁は基礎部分から数える。